

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200544
法人名	有限会社 川内介護福祉会
事業所名	グループホーム 川内森の里
訪問調査日	平成21年1月19日
評価確定日	平成21年4月3日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200544		
法人名	有限会社 川内介護福祉会		
事業所名	グループホーム 川内森の里		
所在地	鹿児島県薩摩川内市中郷町6956-49 (電話) 0996-27-6568		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年4月3日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造セメント瓦平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	86 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若松記念病院 若松歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

立地条件は日常的に静かな環境ではあるが、庭には菜園や花、テーブル・椅子などが設置されており、利用者はホームに居住しながら自然や景色を楽しむことができる。川内川を見下ろせる景観がホームの中からも一望でき、過ごしやすい家庭的な温かい雰囲気の中で生活している。利用者の生活の中に趣味や得意なことを取り入れながら、安心して楽しく過ごせるように改善課題を話し合いながら職員全体で取り組んでいる。また運営者宅も自治会に加入しており、情報交換もできている。地域との交流を重視した、ますますの地域密着のサービスが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員で確認し、家族や地域との交流を重視した理念を作り上げている。災害対策は消防署指導の下(昼・夜間想定)防災訓練をしており改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員は評価の意義を理解しており、時間をかけて評価に取り組んでいる。地域密着型サービスに向けて、ホームの立地条件のマイナス面をカバーする方策などの意見が出されて具体的な改善課題を話し合い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	会議は定期的開催されている。外部評価や事業所の取り組み内容・地域の協力関係の要請など話し合っている。地元の古い史跡巡りを勧められて見学に行くなどサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	相談窓口を設けたり、家族などの来訪時に意見や要望を出しやすい雰囲気作りが心にかけている。足のむくみ予防の要望が出されて温熱療法やマッサージなどで対応し、得られた意見や要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域行事(はんや祭り、花火大会、こいのぼり流し)に参加したり、小学校の運動会、文化祭、近くの託児所との交流をしている。運営者の家族が自治会に加入しており地元との情報交換もできている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域との交流を重視した理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やホールに理念を掲示している。日々の申し送りや職員会議で理念を伝えて共有しケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(はんや祭り・花火大会・こいのぼり流し)に参加したり、小学校の運動会や文化祭、近くの託児所との交流をしている。また運営者の家族が自治会に加入しており、地元との情報交換もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しており、時間をかけて自己評価に取り組んでいる。地域密着型サービスに向けてホームの立地条件のマイナス面をカバーする方策などの意見が出されて具体的な改善課題を話し合い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。外部評価や事業所の取り組み内容・地域の協力関係の要請など話し合っている。地元の古い歴史跡の見学を勧められて見学に行くなどサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の取り組みについて実情を報告して、気軽に連絡や相談できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行したり、家族などに手紙などや来訪時に身体状況や日頃の暮らしぶり、金銭管理を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設けたり、家族などの来訪時に意見や要望を出しやすい雰囲気作りに心がけている。足のむくみ予防の要望が出されて、温熱療法やマッサージなどで対応し得られた意見や要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の重要性を運営者は理解しており、職員異動はなく、なじみの職員は継続的に支える体制作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に熱意を持っている。外部研修やホーム内の勉強会に参加し、研修報告を行い、全職員が共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に加入している。他事業所と勉強会や講習会・情報交換など積極的に行い交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には本人と面接したり家族や主治医より身体状況や思いを十分に聞いている。見学や十分な説明をし不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・農作業・習字・掃除・ゲームなど日常生活の中で得意とすることに力を発揮してもらっている。利用者が出来ないと思っていたこと(裁縫・お茶の接待)をスムーズに行っている姿やお礼の言葉に感動しながら日々をともにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情・言動・行動から思いや意向を把握して特別な日を設けて(温泉・釣堀・ちらしを見て出かける)など実行している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴・本人・家族の思いを聞き、ケア会議にて職員と意見交換を行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヶ月)な見直しと担当者会議を月1回行い(家族の面会時)利用者の状態変化や入退院の際など実践的な対応が出来る様に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を取っている。本人や家族の状況に応じて病院受診・自宅訪問・買物など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算を取っており、重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い、職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族などの同意書も作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れ(食事・起床・就寝・入浴・レクリエーション)は決められているが、その人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・調理など出来ることを一緒にしながら、職員も同席して楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は一応決められているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・掃除・洗濯物たたみ・生花・習字・裁縫・農作業など利用者の趣味や特技を発揮できる支援をしている。また小学校のバザー、ドライブ、電話や手紙、外食など気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や庭での茶話会、レクリエーションをしたり、ドライブ・花見・遠足など外出の機会作りを工夫し、なるべく出かけて閉じ込められない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら見守りに努め、できるだけ自由な生活が出来るように取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと、年2回昼・夜間想定した消防訓練をしている。近くの管理者宅の家族の連携も取れており、安心感がある。災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個別にチェックしており、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保が出来るように支援している。身体状況に合わせてキザミ食・ゼリー食・栄養補助食を取り入れている。また栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔で臭いもなく、温度や換気に配慮が行き届き、季節の花々が飾られて落ち着いた雰囲気のある居住空間である。随所にあるソファやポーチなどくつろげるスペースが確保されており、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真やぬいぐるみ・ポスターなど利用者の好みを活かしているが個別的な居室作りとはいえない。		利用者のこれまでの住環境や生活歴を活かし、それぞれ個別的な居室作りを工夫されることが望まれる。